



天の星



少しずつ暖かい日が増えてきました。冬の寒さも終わりを迎え、春はもうすぐそこまで迫っているようです。

3学期、それぞれの学年のまとめを行う時期です。学習や様々な活動で、来るべき進級や進学に向けた取り組みを進めています。3月には、「コロナが流行っていたけれども、成長することができた1年だった。」とどの子ども振り返ることができるように、子どもたちとともに、1日1日を大切に過ごしていきたいと思います。

さて、3学期の参観日が中止となってしまいましたが、子どもたちも教職員も学年のまとめをしっかりと張り切っていますので、各学年の様子を紹介します。

<各学年の様子>



1年生



まめまき・・・6年生が鬼になってくれ、体育館で鬼退治をしました。途中で中込小学校を守る中込レンジャーも登場して、楽しい交流ができました。

コマ回し・・・自分なりに色を塗ったコマで、お正月遊びの一つ、コマ回しを練習しました。回せなかった児童も、友達に教えてもらって、なんと、全員が自分でコマを回せるようになりました。

2年生

生活科で、けん玉をしています。初めてけん玉をやる子もいましたが、友だち同士で教え合いながら、みんなどんどん上達しています。

買ったときはつるつるだった玉も、今はもうごつごつです。それだけたくさん練習しているということですね。真剣に練習している顔、成功した時の笑顔、失敗が続いたときの悔しい顔、どれもとってもかっこいいです。



3年生



3年松組では、「百人一首～源平合戦」に取り組んでいます。最初は、聞くのも読むのも難解な札でしたが、もう今では、「上の句取り」ができるようになりました。子どもたちの頭は、知識をどんどんと吸収していきますね！

3年竹組ではフリスビーを使った競技アルティメットに取り組んでいます。技術もチームプレイも向上してきました。仲間と「協力」して勝っても負けても楽しい！そんな活動を目指しています。

4年生

1/2成人式をしました。クラスごとの「総合的な学習の時間の学習発表」、一人一人がマイクの前に立ち発表した「おうちの方への感謝状」、「1/2成人の宣言」、「歌」。参観日が中止になって保護者の方には参加していただけませんでしたが、子どもたちは堂々と式を行いました。自分の10年間を振り返り、支えてくれた家族や周りの方への感謝を感じ、次の10年への一歩を踏み出すためのよい区切りの式となりました。



5年生

6年生0学期が始まり、児童会を引き継ぐ時期になりました。児童会長選挙では、各クラスの候補者の応援を寒い中、毎朝率先して行う姿がありました。選挙で選ばれた会長を中心に委員長書記だけでなく、一致団結して新しい児童会を盛り上げていきたいと学年全体で取り組んでいきます。



6年生



卒業に向けてまとめの学習をしている中、性教育の授業も行っています。りんごっ子保健室キャラバン隊（元養護教諭の先生方）が指導にきてくださっています。

8日（月）に第1時「もとは同じ」の学習がありました。同じように成長してきた受精卵に、8週目から性器の違いが生じ始めるということを学びました。「元はみんな女だと知って、それってすごいなあと思った。」胎児の性器が形成されていく仕組みに、みんなびっくりしていました。一人一人の命の大切さを学んでいます。

学松

「パン、パン、パン」とはじける音がしてポップコーン作りをしています。写真はフライパンの種に油を入れて準備をしているところです。この種は、去年の夏、種を蒔いて植え付けをして、草を取ったり肥料をあげたりして、中庭の畑で収穫したものです。味はみんなの希望でその日の味が決まります。塩、ココア、キャラメル、ブラックペッパー、カレーの中で多数決をとって決めます。この頃はココア、キャラメル、カレーの味が多いです。



学竹



カラー粘土での漢字作りに取り組んでいます。鉛筆で書くだけでなく、粘土を使う事によって、どのくらいの長さが必要なのか、文字のバランスはどうなっているのか、感覚的にも実感しやすいように取り組んでいます。

その他にもまちがいさがし、クロスワードパズル、漢字たし算、言葉さがし、パズル、迷路…。時にはタイムを計りながら、それぞれの学習に励んでいます。集中力がついてきましたよ。



<コロナ禍の子どもの心に寄り添って>

コロナの影響により、学校生活は大きく変化しました。どんな状況の中でも、これまでと変わらず元気に過ごすことができる子どもたちもいれば、現状に戸惑ったり、ストレスを抱えたり、これまでのようにはいかない子どもたちもいます。

今年度、心に何らかの異変を感じ、苦しい思いをしている子どもたちの中には、暴れたり、痛みを訴えたり、気力がなくなったりする姿が見られることもあります。コロナ禍の子どもたちの心の状態について職員も研修を重ねたり、ご家族と相談させていただいたりする中、このような状況を改善するために、「受容する気持ち」が大切であることを再確認しました。無理をさせず、慌てずに、できることを丁寧に行っていくことで、改善の兆しが見えたように思います。家族や担任など周囲の人間が、その子のことを第一に考え、子どもがSOSを出せる家庭、学校にしていきたいと思えます。